Nakamura.JHS

食育だより

令和５年 11 月９日（木）
発行者
練馬区立中村中学校
食育推進チーム
【第７号】

食育だよりは、食について情報を発信していくことを目的としています。今年は食に関する「今月の推し！」のコーナーを新たに設定しました。

今月の推しは「りんご」

〔リンゴの花〕

〔りんごの果実〕

近代理論科学の先駆者であるアイザック・ニュートン。彼は、家の庭でりんごが落ちるのを見て、「万有引力の法則」のヒントを得たと言われています。発見のきっかけになったりんごの木は「ニュートンのりんご」と呼ばれ、今でもその木の子孫が現地で大事に保存され、この偉大な物理学者を偲ぶ記念樹となっています。また、苗木は世界各地の科学に関係のある場所に贈られました。このニュートンのりんごは、「ケントの花」と呼ばれる品種で、収穫前に落果する性質が強い品種です。もしこれがあまり落果しない性質のりんごであったら、万有引力発見の逸話は生まれなかったかもしれません。日本には 1964 年に、イギリス物理学研究所から日本学士院に苗木が贈られましたが、防疫検査により、この苗木はすでに高接病ウイルスに汚染されていることが発覚。一時は焼却処分が検討されましたが、学術上貴重なものであること等から例外的に東京大学理学部附属小石川植物園に隔離され、ウイルス除去の研究対象となりました。その結果、16 年後の 1980 年、ようやくこの木からウイルスに汚染されていない接ぎ穂の切り出しに成功し、翌年の 1981 年から一般公開されました。これ以降、ニュートンのりんごは国内各地に移植されています。

今回は、江戸東京野菜
「寺島なす」

通常のナスよりもやや小ぶりで、皮が固く肉質がしっかりしているのが特徴。「蔓細千成（つるぼそせんなり）ナス」とも呼ばれています。隅田川沿いの肥沃な土地が栽培に適していたことから、寺島村（現在の墨田区）を中心に栽培されていました。ほかの品種よりも早く収穫期を迎える寺島ナスは、文政 11 年（1828）に発行された『新編武蔵風土記稿』にも「形は小なれどもわせなすと呼び賞美す」と記され、地域の特産品として千住や神田へ出荷されていました。大正時代に起こった関東大震災後、宅地化による畑の減少で生産が途絶えてしまいましたが、2009 年に復活を果たしました。

〔ちょっと、一息コーナー〕

「食育クイズ⑦」

弥生時代の卑弥呼の食事を再現してみました。
何回くらいかんでいるのかな？

①約 390 回　②約 1990 回　③約 3990 回

答え③